



南条つ子

南条つ子は 進んで学ぶ子
思いやりのある子
かっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

南条小学校だより R1.10.29 No.64

○ 3年生 南条地区文化祭 ステージ発表

10月26日(土)、3年生が地区文化祭でステージ発表を行いました。南条文化会館の大きなステージの上、多くの観客を前にして、とても緊張したと思えますが、大変立派に『三年とうげ』を発表することができ、たくさんの拍手をもらうことができました。ご覧になっていた方からも、「すばらしい!!」という声がたくさん聞こえてきました。3年生のみなさん、本当によく頑張りました。

また、当日は、たくさんの方に見に来ていただきまして、ありがとうございました。



○ 南条地区文化祭 作品展示



作品の撤収にご協力
いただきまして、ありが
とうございました。

○ 「第13回朝の読書大賞」大賞贈呈式

10月28日(月)、東京都千代田区神保町の出版クラブにて開催された「朝の読書大賞」の贈呈式に行ってきました。表彰後には受賞スピーチもさせていただき、本校の読書の取組について話してきました。



【受賞理由】

南条小学校は、毎日10分間の朝の読書を行っている。地域・町などの協力のもと、「学校図書館経営計画」に沿った、様々な読書推進活動を行っている点が高く評価された。

学年ごとの毎月の読書目標冊数や、学校選定の「すいせん図書」は、達成したらシールがもらえたり、校長室で表彰されたりするなど工夫され、児童の励みとなっている。「週末読書」や「親子読書」の取り組み、上級生が下級生に読み聞かせを行う「なかよし読書」のほか、図書委員会も積極的な活動を行っている。

保護者による図書ボランティア(略称「ブックマ」)の活動も活発である。環境部とお話部から組織され、図書室の整備、展示物の作成などとともに、読み聞かせも毎週行っている。町の図書館司書によるブックトークも年12回(2回×6学年)行われており、読書の幅を広げるとともに、「読書の大切さ」を児童に伝えている。また、福井県では「選定図書学校巡回事業」として、古典や県ゆかりの物語など推奨図書を全小中学校で巡回させ、クラス全員で同じ本を読むという取り組みも行っている。

20年以上続く朝の読書をベースに、学校の様々な取り組みと、地域・町・県の積極的な支援もあり、本好きの児童がすくすくと育っている。

※「朝の読書」について

1988年に、千葉県の方のふたりの高校教師(林 公氏、大塚笑子氏)の提唱で始められた学校における読書活動で、始業前の10分間、生徒と教師全員が自分の読みたい本を毎日読むというもの。「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」という感想文や評価のない自由な読書活動です。2019年9月2日現在の実施校は26,765校。うち小学校16,410校、中学校8,430校、高等学校2,195校となっています。

【校長のひとり言】

先日、地元新聞のコラムに、次のような記事(要約、一部加筆)がありました。

「人間には後悔は付き物である。それはどんなことですか？」

アメリカの心理学者が大学生に聞いたところ、自分が過去に失敗した経験(テストでのミス、運転中に起こしてしまった事故など)を挙げる傾向が強かったそうです。ところが、同じ質問を老人ホームのお年寄りにすると、過去にやらなかったこと(旅行に行っておけば良かった、習い事をしておけば良かったなど)を挙げたそうです。

「やった後悔よりやらなかった後悔」。何かを始めることに不安も多いが、前向きに取り組めば人生は充実する。「やらぬ後悔は避けるべし」。……大先輩から学ぶありがたい言葉です。

また、記事から離れますが、故・日野原重明先生(医学博士、105歳没)が一番大切なこととして、「命とは、人間が持っている時間のことです。人は、自分のために時間を使います。さらに、だれかのために時間を使ってください。」とおっしゃいました。これもまた、心に響きます。これらの言葉を今後の人生を送る上で忘れずにいたいと思いました。